

個人投資家向け会社説明会

株式会社丸山製作所（証券コード6316）

次の100年を創る
-All for the Future-



沿革

1895 年 新潟県高田町にて丸山商会を創業（日本で初めて消火器を製造）

1918 年 人力噴霧器の製造・販売

1935 年 動力噴霧機の製造・販売

1937 年 株式会社丸山製作所を設立

1961 年 東京証券取引所市場第二部に上場

1967 年 工業用ポンプを開発

1977 年 東京証券取引所市場第一部に指定

1990 年 オリジナル 2 サイクルエンジン開発
（日本で最後発の 2 サイクルエンジンメーカー）

2000 年 新環境型 2 サイクルエンジンを開発
カリフォルニア州排ガス規制クリア

2004 年 消火剤リサイクル…eco 消火器を販売

2012 年 キャビン付ハイクリブームの開発

2016 年 マルチローター（ドローン）の開発

2017 年 ハイクリブーム 3000L タイプの開発

2023 年 ハイクリブーム 2000L タイプの開発

2023 年 2 ストローク水素エンジン、安定運転に成功

2025 年 創業 130 周年



丸山式消火器



刈払機



バッテリー動噴



ブローワ



カーウォッシャー



キャビン付ハイクリブーム
（乗用管理機）



マルチローター（ドローン）

当社の事業内容



農林業用機械分野

現在、丸山グループの基幹となっている事業です。
丸山独自のポンプを使用した農薬などの散布に用いる防除機は、変化し続ける農家の皆様のニーズに対応すべく、多種多様な製品を製造・販売しております。
また、自社製の2サイクルエンジンを使用した草を刈る機械である刈払機、木を切るチェーンソーなども扱っています。

産業機械分野

現在、丸山製作所が力を入れている事業です。
高圧洗浄機や洗車機、ミスト装置などに使われる産業用の高圧ポンプの開発・製造を行っております。
また、畜舎内での病原菌の感染を防ぐ車両消毒装置など、環境衛生機器分野にも丸山製作所のポンプは活用されております。

防災関連分野

丸山製作所は日本で最初に消火器の製造・販売をした企業です。
多様化する社会の中で「環境とより安全な消火器で社会に貢献する」という理念のもと、消火薬剤のリサイクル化を進め、技術改良と製品開発により、さまざまなニーズに対応しております。

当社の強み [国内の販売・生産・サービス拠点]

本社 東京都千代田区

生産拠点 4ヶ所
千葉県東金市（2ヶ所）
長野県須坂市
岡山県苫田郡

営業拠点 全国 25ヶ所
北海道（江別・帯広）／青森／岩手／秋田／
山形／宮城／福島／茨城／栃木／千葉／新潟／
長野／山梨／石川／愛知／静岡／大阪／広島／
岡山／香川／福岡／熊本／鹿児島／宮崎

物流拠点 3ヶ所
福島県／千葉県／岡山県

関係会社 日本クライス株式会社
マルヤマエクセル株式会社
西部丸山株式会社
丸山物流株式会社
双葉商事株式会社
M-Innovations株式会社

千葉工場 (東京ドーム3個分の敷地)



西部丸山（岡山）



物流拠点(福島)



全国規模で事業を展開 ⇒ 充実した販売・サービス体制を確立

当社の強み [海外拠点・取引先]

世界80か国以上の国々との取引実績



当社の強み [製品づくりの姿勢]

●丸山グループは、お客様の声を重要視しております。

頂いたお声をしっかりと製品へ反映させるため、当社では、設計・製造から販売・アフターサービスまで、グループ内で一貫して行なっております。

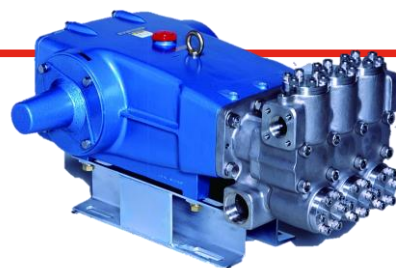


当社の強み [製品]

当社の製品は様々な分野でトップシェアを獲得しています。



ポンプ製品の農業用防除機で
国内トップシェア



海外（米国）でのカーウォッシュ用ポンプで
トップシェア



エンジン製品の刈払機で
ホームセンター流通国内トップシェア

市場環境



【農林業市場】

《日本市場》

- ・ 農業従事者の減少や高齢化などの課題
- ・ 農業の生産性向上は必要不可欠な状況

➡ 問題解決として「スマート農業」の活用に大きな期待が寄せられている

《世界市場》

- ・ 人口増加による食糧危機、気候変動による不作など、食糧をめぐる様々な問題
- ・ 農業の効率化と生産性向上ニーズは世界的に高まっている

➡ 当社グループの高い技術力・開発力がこの社会問題の解決に寄与する

【工業用機械市場】

- ・ 景気の影響を大きく受ける業界
- ・ 新型コロナ感染拡大により投資を控えていた企業が、世界経済の回復を背景に投資へと向かい、その需要は増加傾向

➡ ウルトラファインバブル技術や新用途向けのポンプ製品開発を進め、国内外ともに更なる事業拡大

【防災市場】

- ・ 防災意識の高まりにより、需要が拡大している。

➡ 環境にも配慮したリサイクル消火器を拡販

長期経営ビジョン 中期経営計画

2030年 長期経営ビジョン

社会の課題

- ・ 調達難・材料高騰
- ・ 世界的食糧難・水不足
- ・ ウイルス対策
- ・ 人材・労働力不足
- ・ 環境問題
- ・ 国際政治・経済問題

2030年 長期経営ビジョン

- SDGsに繋がるESG経営の強化
- 社会貢献型企業として成長市場に進出

目標

- 食・水・環境分野の社会課題解決
- CO₂排出量 50%削減
- 女性管理職 7名

成長市場

【食・農業・畜産市場】

農薬の適量散布：大型防除機・ドローン・ウルトラファインバブル製品による課題解決
 養殖・育苗：ウルトラファインバブル製品の投入

【環境市場】

消臭・節水・RO処理（水処理）・ミスト・気液混合・ウルトラファインバブルなどのポンプ技術による社会的課題の解決
 環境ニーズ・リサイクルニーズへの対応

第8次中期経営計画 [2023年9月期～2027年9月期]

◆ 中期経営計画コンセプト：「成長事業の創出」

ESG経営の強化

攻めのESG

食・水・環境市場
社会貢献

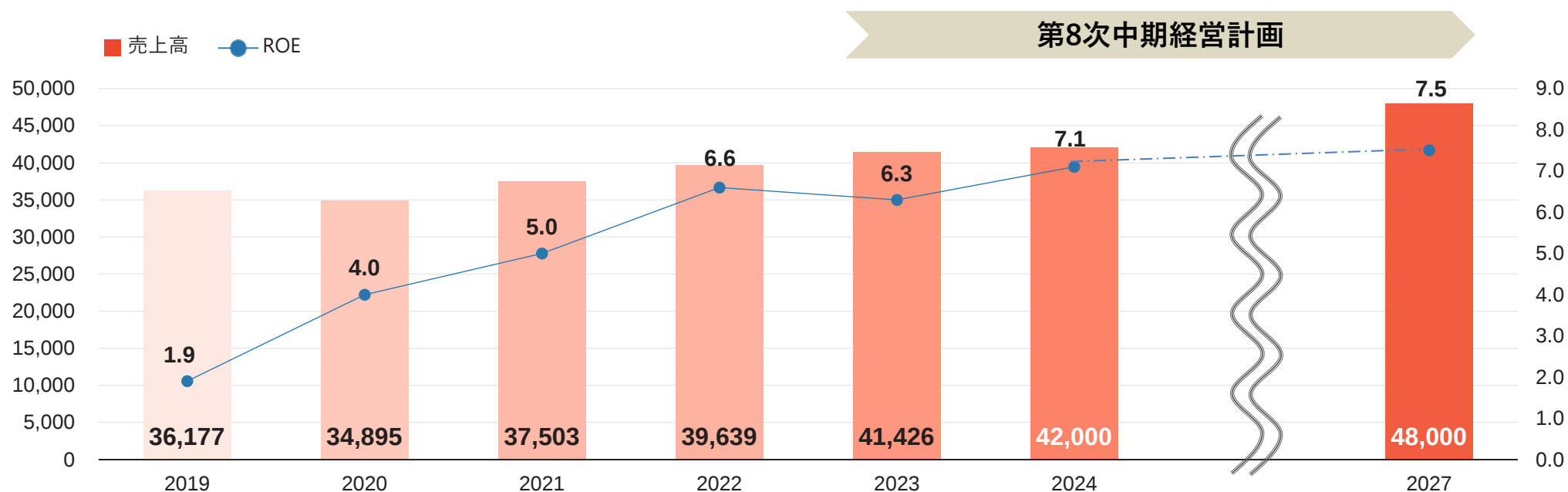
守りのESG

持続可能な体制づくり
リスク管理・投資・ガバナンス強化

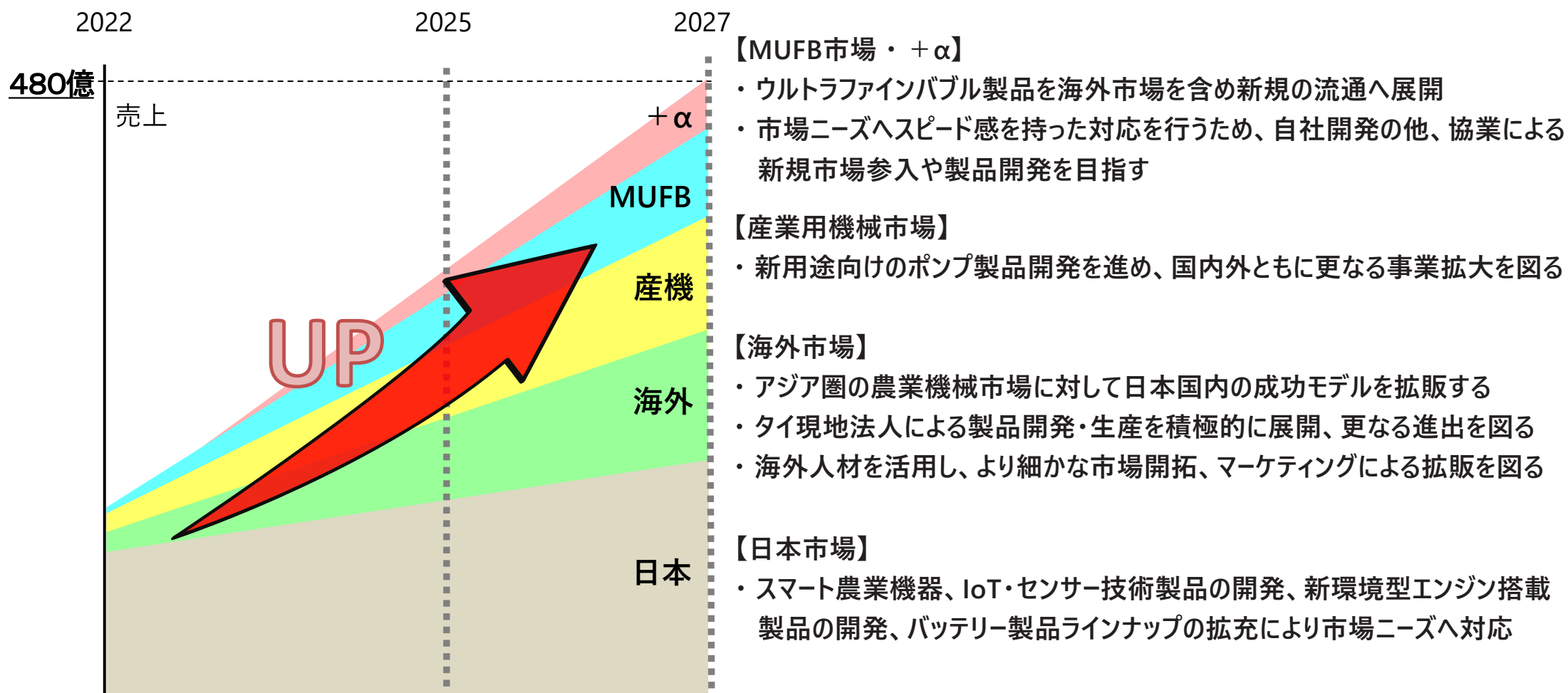


第8次中期経営計画の目標

単位：百万円	2023年9月期 実績	2024年9月期 目標値	2027年9月期 目標値
売上高	41,426	42,000	48,000
営業利益	1,732	2,000	2,800
ROE	6.3%	7.1%	7.5%



第8次中期経営計画 事業成長イメージ



成長事業の創出：MUFB(ウルトラファインバブル)技術

農業



- ・野菜のハリ、ツヤが良くなった
- ・果物の収穫量、甘さも増した
- ・減肥栽培に有益性が発揮された



水産業



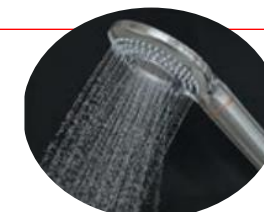
- ・鮮度が長く保たれるようになった
- ・畜養での死滅率が減った



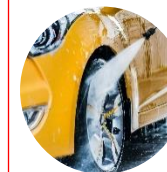
家庭



- ・髪や肌がうるおった
- ・節水しながら洗うことができる
- ・排水溝のニオイがなくなった



洗浄



- ・トイレの尿石が取れた
- ・臭いが減った
- ・除塩、除油作業の効率が良くなった



ウルトラファインバブルとは 1 μ m 以下の微小な泡

- 洗浄力の向上
- 浸透性の向上
- 生理活性効果
- 泡の長期滞在

工業



- ・洗浄力の向上により洗剤の量が減った
- ・金属加工で使う切削液が長持ちした
- ・燃料使用時のCO2が削減された

ファインバブル活用事例集を基に当社作成： https://k-rip.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/finebubble_ver4.pdf

成長事業の創出：海外事業の成長

アジア圏

“アジア圏”

タイ・インドを含め、アジア圏での生産を増強し、アジア圏での更なる展開に取り組みます。

“インド”

インド向けハイクリブームの生産販売に向け、部品調達を行い、インド市場の開拓を行います。
また、インドでの現地調達部品を日本へ輸入し、コストダウンを図ってまいります。

“ベトナム”

R&D現地法人の設立を皮切りに、大型機械の販売準備を進めてまいります。

北米

工業用ポンプの新製品投入と、OPE事業の成長を図ります。

中南米

OPE及び農業用製品の拡販を行うため、リソースの拡充を図ります。

海外売上高比率

現在 26%



2027年度 35%

成長事業の創出：スマート農業・環境型製品への取り組み

温水洗浄機

- ・温水のウルトラファインバブルによる高い洗浄力と結晶融解効果で、しつこい油汚れや沿岸部における潮風、冬場の融雪剤により付着した塩などを素早く除去
- ・従来の水道水での洗浄と比べ使用燃料削減とCO2排出量の削減や、作業時間短縮による使用水量の削減を実現

MUFBは、農業分野をはじめ、多くの分野での実用化が進んでおり、今後も新分野への実用化を行うべく

研究開発を進めてまいります。



次の100年を創る
-All for the Future-

ドローン

- ・防除機メーカーである当社による農業用に特化した扱いやすい機体を販売
- ・GPS信号を受信した自動制御飛行
- ・資格取得の教習からアフターサービスまでトータルサポート体制を構築



ドローンの普及
および安全な操作に向けて取り組みます。

環境型製品

- ・廃消火器のリサイクルへの取り組み
- ・当社グループの廃消火器回収率は90%以上
- ・薬剤のリサイクル率95%以上を継続
- ・その他、消火器本体の容器や、ホースに関してもリサイクル

環境負荷低減に向けたエコ消火器として、持続可能な社会づくりに貢献します。



サステナビリティへの取り組み

ESG経営、SDGsの達成に向けた取り組みをより一層推進するため、サステナビリティ専門家を招き、経営層を中心としたサステナビリティ委員会、将来を担う若手メンバーを中心としたサステナビリティ推進委員会にて、サステナビリティの方針、重要課題、KPIなどのテーマについて議論を進めております。

また、サステナビリティに関するレポート開示に向けた取り組みを進めております。

丸山グループのコアテクノロジーであるポンプとエンジン技術を最大限発揮し、食・水・環境の分野において、事業活動を通じたサステナビリティを実現し、グローバルに社会貢献できるよう活動を継続してまいります。



【丸山製作所グループのサステナビリティ】

【CO2排出量削減への取り組み】

当社では、「2030年 長期経営ビジョン」の目標の一つにCO2排出量50%削減（2020年9月期比、Scope2）を掲げています。2022年9月期、当社の主力工場である千葉工場（東金市）及び2番目に生産量の多いグループ企業である日本クライス株式会社（東金市）では2023年9月期に使用する電力を再生可能エネルギー由来の電力へ変更しました。

これにより、自社の生産活動により発生するCO2排出量の40%相当（約2,300t-CO2）を削減できました。更に2024年9月期には、西部丸山株式会社に太陽光発電設備を導入します。

引き続き全拠点において、CO2削減に向けた取り組みを進めていきます。



直近の業績

[2024年9月期 第2四半期]

2024年9月期 第2四半期 業績概要

単位：百万円	2023年9月期 第 2 四半期 実績			2024年9月期 通期予想	2024年9月期 第 2 四半期実績			
	金額	売上高 比率		金額	金額	前年同期比		売上高 比率
						増減額	増減率	
売上高	18,431	－		42,000	17,603	▲827	▲4.5%	－
営業利益	425	2.3%		2,000	264	▲160	▲37.9%	1.5%
経常利益	424	2.3%		2,000	253	▲171	▲40.3%	1.4%
当期純利益	378	2.1%		1,400	141	▲237	▲62.7%	0.8%
為替レート 米ドル	134円			140円	151円			
為替レート ユーロ	146円			150円	163円			

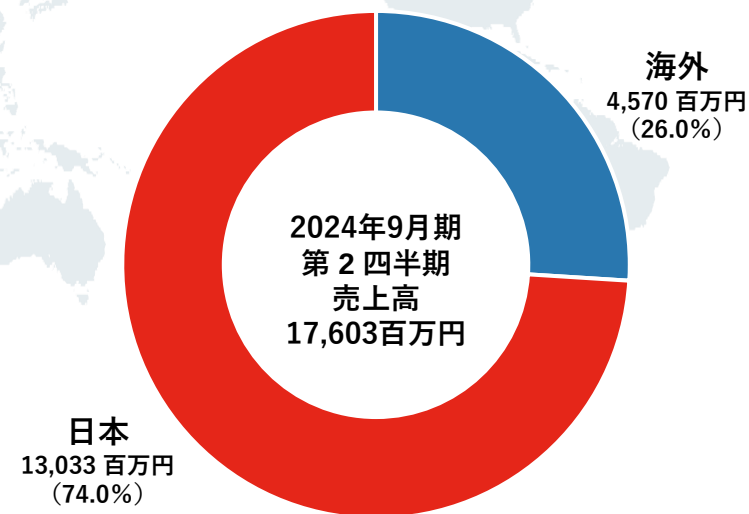
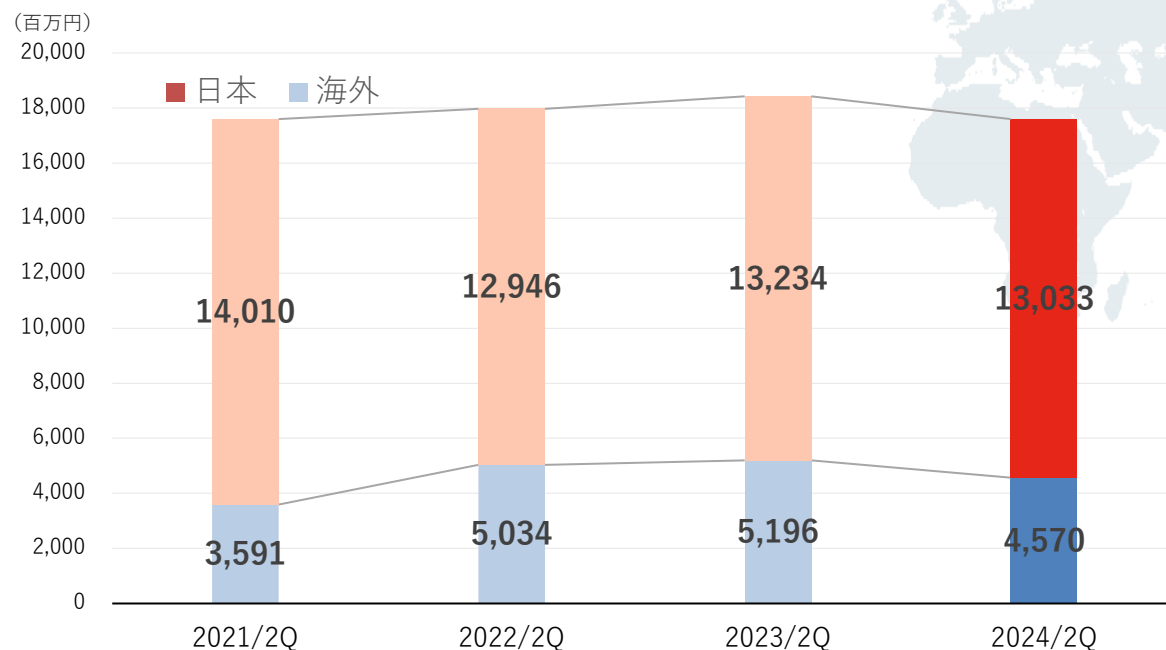
経済

- ・ 新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の解除による需要回復が一巡する中で、緩やかな回復基調
- ・ 地政学的緊張の高まりの長期化による資源やエネルギー価格の高騰
- ・ インフレ警戒に伴う各国の金融引き締めによる急激な円安の進行

変動要因

- 【日本】 ・ アグリ向け大型機械の増加 ・ 工業用ポンプの減少 ・ 洗浄機の減少 ・ 消防機械の増加
 【海外】 ・ 中南米向け動力噴霧器、刈払機の減少 ・ 北米及び欧州向け工業用ポンプの減少

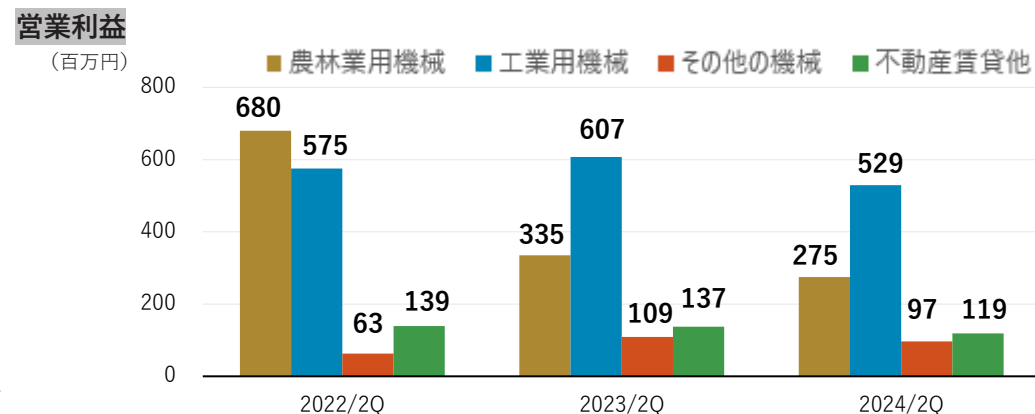
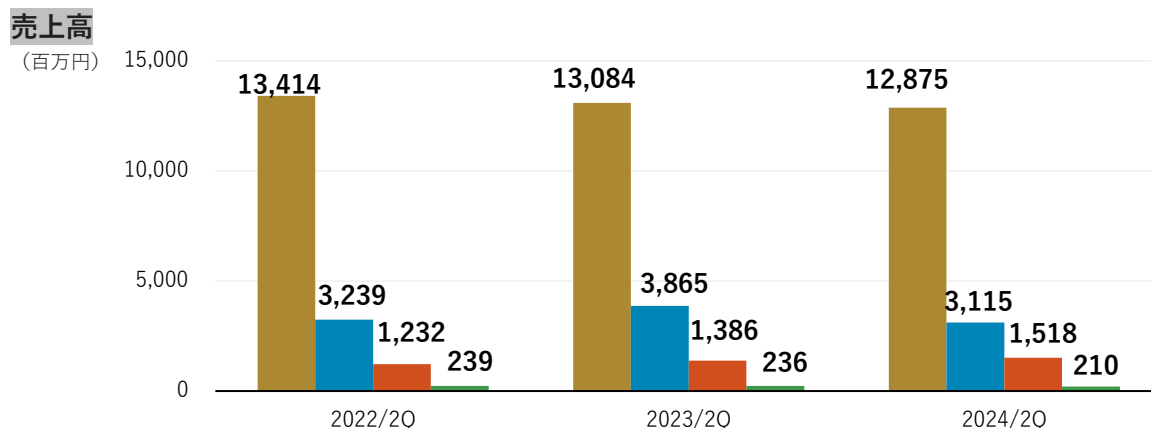
海外の売上高の状況



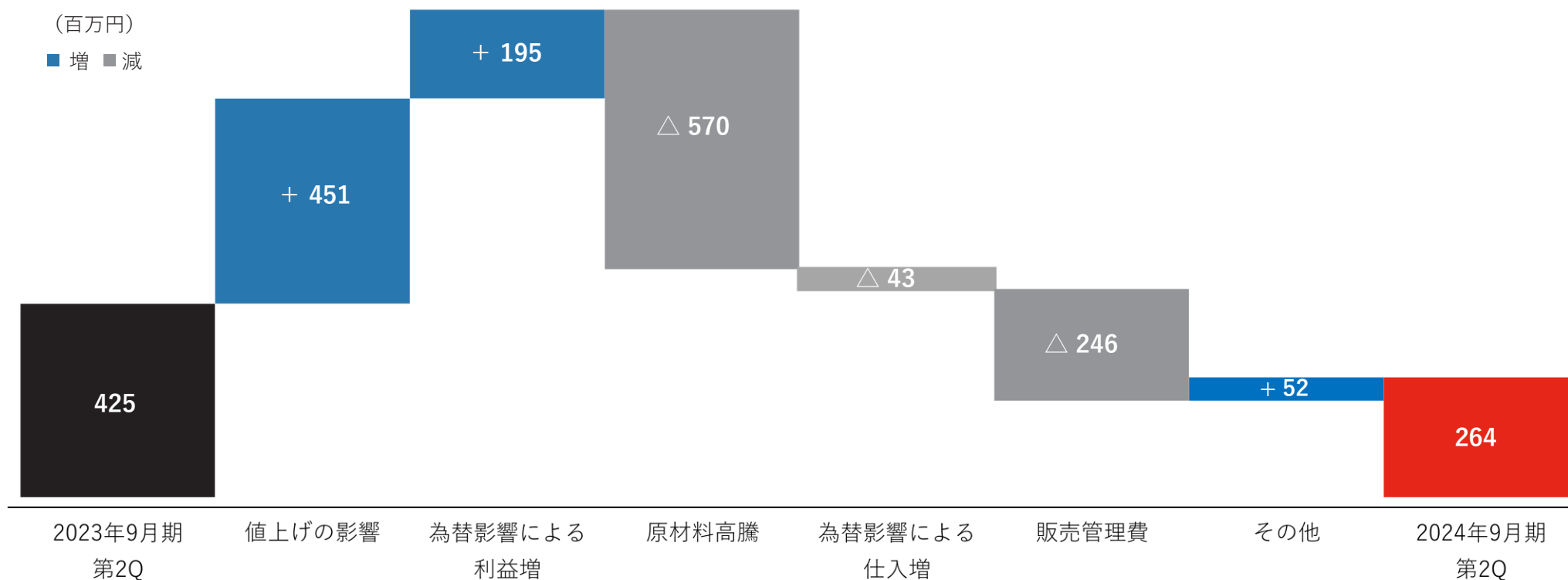
単位：百万円	2023年9月期 第2四半期実績		2024年9月期 第2四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
海外	5,196	28.2%	4,570	▲626	▲12.1%	26.0%
日本	13,234	71.8%	13,033	▲200	▲1.5%	74.0%

セグメント別 業績概要

単位：百万円	2023年9月期 第2四半期 実績			2024年9月期 第2四半期 実績							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	前年同期比		売上高 構成比	営業 利益	前年同期比		営業利益 構成比
					増減額	増減率			増減額	増減率	
農林業用機械	13,084	70.5%	335	12,875	▲208	▲1.6%	72.7%	275	▲60	▲18.1%	26.9%
工業用機械	3,865	20.8%	607	3,115	▲749	▲19.4%	17.6%	529	▲77	▲12.7%	51.8%
その他の機械	1,386	7.5%	109	1,518	+131	+9.5%	8.6%	97	▲12	▲11.2%	9.5%
不動産賃貸他	236	1.3%	137	210	▲25	▲10.8%	1.2%	119	▲18	▲13.3%	11.7%
調整額 (セグメント間取引)	△141	—	△765	△116	+24	—	—	△757	+7	—	—
合計 (うち海外)	18,431 (5,196)	100.0% (28.2%)	425	17,603 (4,570)	▲827 (▲626)	▲4.5% (▲12.1%)	100.0% (26.0%)	264	▲160	▲37.9%	100.0%



2024年9月期 第2Q増減益要因分析 [経常利益]



【＋】 値上げの影響（+ 451）、為替影響による利益増（+ 195）が主な要因

【－】 原材料高騰等の影響（△ 570）、為替影響による仕入増（△ 43）、
研究開発費の増加（△ 67）が主な要因

2024年9月期通期達成への取り組み〔国内〕



【新製品高圧洗浄機】

高圧洗浄機の新製品投入により、新規顧客を獲得し、上期の落ち込みを挽回いたします。



【大型防除機BSA-2000C】

本州全土での展開をスタート。
積極的な実演活動や展示により、販売強化いたします。



【アフターマーケット活動】

これまで実施してきたアフターマーケット活動の成果として、前年比増の点検・整備台数を見込んでおります。
安心して丸山製品をお使いいただける体制づくりをさらに強化いたします。

2024年9月期通期達成への取り組み [海外]



【ハイクリブーム拡販】

海外向けハイクリブームに新製品を投入し拡販を図ります。
特に、韓国、台湾、インド市場に対して、
推進活動の強化を行います。



【工業用ポンプ新製品投入】

米国におけるシェールガス掘削作業向けに工業用ポンプの
新製品を投入し、市場の拡大を図ります。

2024年9月期通期達成への取り組み [利益]



【トータルコストダウン活動】
全社取り組みとして行っている製造、販売、物流、管理コストの低減活動（トータルコストダウン活動）を継続、強化いたします。



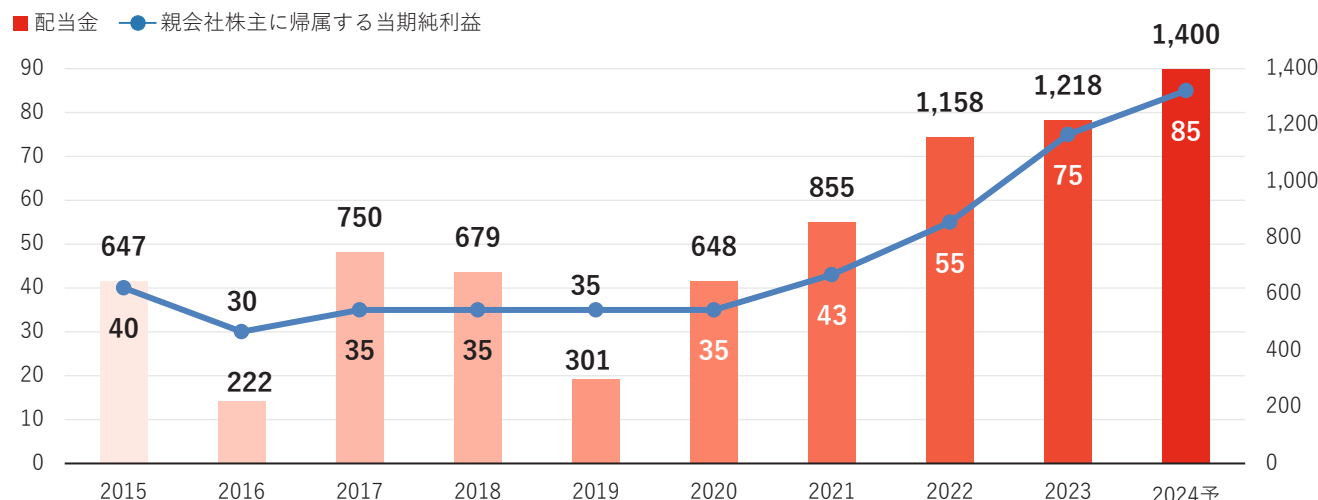
【製商品の値上げ】
部品や原材料費の価格高騰が続いているため、適時適切に製商品の値上げを行ってまいります。

株主還元

株主還元

- ・当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と位置づけ、将来の事業展開に必要な内部留保・各種投資、並びに業績見込みなどを勘案し、25%～30%の安定的な配当を継続することを基本方針としております。また、健全な経営の維持と将来の経営環境への対応を勘案しながら、株主還元を更に充実させていくことは重要と捉え、今後、配当性向の向上、自己株式の取得等に取り組み、長期安定的な配当水準の向上に積極的に努めてまいります。

・来期の配当予想額は 1 株につき 85 円



ご参考－配当性向 2023年9月期

配当金のみ	27.1%
株主優待を含めた配当性向	28.4%

ご参考－総還元性向 2023年9月期

配当金額	330 百万円
株主優待総額	15 百万円
自己株式取得総額	263 百万円
合 計	609 百万円
総還元性向	50.0%

※ 2017 年 4 月 1 日付で普通株式 10 株を 1 株とする株式併合を実施したため、1 株あたりの配当金については 2010 年に株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

株主優待

株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式に対する中長期的な投資魅力を高めることを目的として、株主優待制度を実施しております。

・ ESG活動の一環としてQUOカード 1 枚につき 10 円を社会貢献団体に寄付することとし、自然保護等に役立ててまいります。

【贈呈対象】

毎年9月30日の当社株主名簿に記載されており、100株以上の当社株式を1年以上継続保有されている株主様

継続保有期間	保有株数	株主優待
1年以上3年未満	100株以上	QUOカード1,000円分
3年以上5年未満	100株以上200株未満	QUOカード2,000円分
	200株以上	QUOカード2,500円分
5年以上7年未満	100株以上200株未満	QUOカード3,000円分
	200株以上	QUOカード4,000円分
7年以上	100株以上200株未満	QUOカード5,000円分
	200株以上	QUOカード6,000円分

注) 継続保有期間の確認にあたっては、3月31日及び9月30日の株主名簿に連続して記載される同一の株主番号の回数並びに各回において100株以上の確認を基準といたします。

- ・ 1年以上3年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続3～6回記載
- ・ 3年以上5年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続7～10回記載
- ・ 5年以上7年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続11～14回記載
- ・ 7年以上：株主名簿に100株以上の保有を、連続15回以上記載

注) 以下の場合株主番号が変わり、継続保有となりませんのでご注意ください。

- ・ 証券会社の貸株サービスを利用して貸株された場合
- ・ 保有株式を全て売却した後に買い戻した場合
- ・ 株式をお預けの証券会社を変更された場合
- ・ 名義変更などにより株主番号が変更された場合



次の100年を創る
-All for the Future-

